十島村教育委員会だより　令和６年１月号

さわやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

【辰年！新たな新年を迎えて】

十島村教育委員会教育長　木　戸　浩

　明けましておめでとうございます。という挨拶が適切なのかはなはだ疑問ですが，新年なのでこの挨拶からスタートさせていただきます。と申しますのも昨年の１２月２９日にフェリーとしま２の火災事故が発生したからです。幸い乗客・乗員にけが人等がなく安心したところではありますが，その後の運行状況の予定が立たず，食料や生活物資の輸送がどうなるのかといった状況の中で，村民の方々は日々不安な思いをされているところではないかと案じているところです。

　また，元日に起きました「能登半島地震」では，多くの方々が被災され，犠牲者も二百人以上になっています。亡くなられた方々に心より御冥福をお祈りいたしますとともに，一日も早い復興を望みたいと思います。

　十島村でも地震や火山噴火などの自然災害がいつ起こるか分からない部分はありますが，不測の事態が発生した場合にどう対応していくのか，そのために様々な避難訓練も実施されているところであり，今後の対応をしっかりと準備しておくことが肝要かと思います。

　新年のスタートが，このような不幸なニュースから始まってしまったので，今年はどんな年になるのだろうかと心配されている方も少なからずいらっしゃるのではないでしょうか。しかし，今年は辰年です。竜のように勢いよく空に駆け上がることができるように，今年を飛躍の年にしたいと願っています。

◇　“人間　万事塞翁が馬！”
（じんかん　ばんじさいおうがうま）

　上記は，中国のことわざで，一見不運に思えたことが幸運につながったり，その逆だったりすることのたとえで，幸運か不運かは容易に判断しがたいということのようです。要は，不運も幸運もずっと続かないし，そして，その人の捉え方（受け取り方）で，気持ちも変わってくるということだと思います。

　現状を悲観することなく，常にポジティブに捉えながら，よいイメージを持って取り組むことが大切なのではないでしょうか。同じような故事成語に『禍福は糾える縄のごとし』という言葉もあるようです。

◇　高校入試に向けて！

　現在７つの中学校に１６人の受験生がいます。正月明け早々に私立の入学試験があり，合格した生徒もいます。全国からの山海留学生もいるので，県によって入学試験の期日は様々です。私立高校を第一希望にしている生徒もいますし，３月の公立高校の入学試験を最大の目標にしている生徒もいます。

　船の運航スケジュールが定かでない時期の入学試験ですので，受験に間に合わないということがないように，教育委員会としても，役場の担当課や学校と緊密に連携をとりながら，「１５歳の春」をつかみ取れるように，最大限の協力・努力をしていきたいと思います。受験生の吉報を祈りたいと思います。

子供のうた
（十二月二十六日　南日本新聞掲載）

つり

つりをするのは楽しいな
でも魚がいないとつれないし
たくさんいても
にげたらいない
魚がいない　でも
まきえをまいたらよってくる
そしたら魚が食べちゃって
またいなくなってしまう
だからくやしい

諏訪之瀬島小四年
森健太郎

子供のうた
（十二月二十五日　南日本新聞掲載）

ドラム

ドンドンドン
カンカン
ドンガンドンガン
シャカシャカドン
右手
左手
右足使って
ずんずんひびくぞ
全身ふるえる
ぼくの心もふるえてる

口之島小四年　肥後日向虎

【新聞に投稿】

令和５年１１月２０日　南日本新聞「若い目」掲載

認知症知ってほしい

小宝島小　三年　田中　美羽

　朝読書の時間に「赤いスパゲッチ」という本を見つけました。詩人で児童文学作家のふじ川幸のすけさんの作品です。気になったので読んでみました。

　いつも大好きな赤いスパゲティを作ってくれるおばあちゃんが、認知症になってしまうお話です。読んではじめてこの病気のことを知りました。

　認知症になると、食べたことを忘れるうえに、おなかがいっぱいと感じにくくなってしまいます。だから、ごはんを食べても「なんで私にごはんをくれないの」と本気で思ってしまうそうです。また、お化しょうもできなくなるそうです。

　私は家族が認知症にならないでほしいと思いました。なぜなら、私のことを忘れられたらいやだからです。だけど、おばあちゃんのためにスパゲティを作るしおりちゃんは、やさしいなと思いました。

　私も家族がもし認知症になったら、ごはんを作ってあげたいです。認知症のことをみんなに知ってほしいです。

令和５年１１月９日　南日本新聞「若い目」掲載

ボーカルに挑戦して良かった

諏訪之瀬島中一年　花谷　充樹

　僕は四月に大阪から山海留学生として十島村の諏訪之瀬島にやってきた。十一月四日には島の文化祭に初めて参加した。

　六人組バンドのボーカルとして「小さな恋の歌」を歌った。十月から、動画投稿サイトで流れる歌に合わせてしっかり歌えるように練習した。

　十月下旬には、先生のギターに合わせて練習した。最初の音が合わないと、最後までずれてしまう。音程を合わせて歌うように頑張った。

　初めてドラムやエレキギター、ベース、木琴、キーボードと合わせた時、ドラムの音が大きくてマイクが必要だと分かった。本番直前までマイクを使って練習した。

　いざ舞台に立つと、ドキドキして前を見られなかった。ドラムの合図で歌い始めたものの、ちゃんと歌えたか少し不安になった。

　しかし、お客さんから「声がよく出ていたよ」とほめていただいた。ボーカルに挑戦して良かったと思った。何もしないで後悔するより、挑戦して後悔する方が大事だと分かった。これからも島でいろいろ挑戦したい。

十　島　村　で　学　ぶ

【受験にむけて】

宝島中学校 2年 久永大地

　僕は宝島の中学二年生で，ここに来てからもう二年が経ちます。

　僕はもともと，悪石島に住んでいて，三歳から小学六年生まで，そこで育ちました。宝島には親の仕事の関係で，急きょ引っ越すことになりました。悪石島でお世話になった島民の方々や，仲の良い友達と別れなければいけないので，寂しさがありました。

　ですが，修学旅行や集合学習で話したことがある友達のおかげで，時間が経つにつれて，話せる人が増えていきました。今は，楽しい学校生活も送れています。

　来年はいよいよ受験生になります。現在，まだ将来の夢が決まっていない僕は，いろいろな高校を調べながら，進路について考えています。自分が行きたい高校が決まったときに，そこに行けるだけの力をつけるために，今のうちから勉強を頑張っていきたいと思います。

【平島小・中学校からのメッセージ】

教諭　堀之内利成

　「必ず鹿児島に戻り，鹿児島の子供たちと一緒に成長し続ける教師になる。」３年前，この夢を実現することができ，胸が躍る思いになったことを今でも鮮明に覚えています。そして，勤務先が十島村であることに，さらに喜びを感じました。なぜなら，私の父が昭和５６年からの３年間，口之島小・中学校に勤務し，亡き母も一緒に生活していたからです。幼い頃に両親から，十島村での生活や文化について話を聞いていました。話を聞きながら，「きっと苦労する面もあるが，貴重な学び・素敵な出会いが必ずある」と思いました。実家の前にある遊歩道で魚釣りをしながらフェリーとしまを眺め，「いつかは十島村の学校に」と願っていました。念願の十島村での教員生活を過ごすことができ，毎日感謝の気持ちでいっぱいです。

　本校に勤務して２年９ヶ月が過ぎようとしています。今まで実施されていた平島の伝統行事や集会等が復活し，多くの方と触れ合う時間も増えて大変嬉しく思っています。改めて，島民の方々の人情溢れる温かさ・支えにより，多くのことを学ぶことができ成長させていただいていると実感しています。

　今年度は，全体の場で務める機会が多く，受け持っている小学校５・６年生３名だけでなく，中学生８名を合わせた１１名の児童生徒と楽しい学校生活を過ごしています。その中で，自己の省察をし，自分に何ができるのか考えて何事にも精一杯取り組むようにしています。日々，子供たちから多くのことを学んでいること，島民の方々にお世話になりながら平島生活を満喫できていることへの感謝の気持ちを忘れず，学び続ける姿勢を保ちながら，今後も自己研鑽に励んで参ります。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

　今年の干支は辰です。みんなで支え合い，互いの個性を発揮しながら，辰が天を勢いよく昇るかのように子供たちと共に前進する１年にしましょう。本年もどうぞよろしくお願い致します。